

男女共同参画社会をめざす

New Wave No.3

ニューウェーブ

平成13年(2001年)8月25日発行

特集 女性の再就職

もう一度働きたいと思ったら…

インタビュー

ジェンダーフリーな人



特集

女性の再就職

もう一度働きたいと思ったら…

子育ての時期に仕事を辞め、その後再就職。平成11年度に市が実施した「男女平等に対する意識とニーズに関する調査」によると、理想的な働き方としてこのように考える女性が多くいました。しかし経済状況のキビシさも手伝い、一度家庭に入った女性が仕事を所持時のハードルは依然として高いと言えます。男女共同参画社会を考える切り口の一つとして、今回は女性の再就職をテーマに考えてみました。

アンケート結果から

6月から7月にかけて総合福祉会館で行われた、市主催の「女性の再就職準備講座」の受講生の皆さんにアンケートを実施しました。

～アンケート結果～

(受講生25歳～45歳の女性、14人対象)

1. 再就職にあたって家族の協力はありますか？
家事全般を手伝ってくれる…………… 4人
子育てに協力してくれる…………… 3人
反対はしないが、非協力的…………… 6人
2. 再就職を妨げているものは何ですか？
家族の協力が得られない…………… 2人
子育ての面で不安がある…………… 10人
望ましい仕事が身近に無い…………… 7人
その他(能力に不安、親の健康状態など) …… 3人

家事や子育てに積極的な男性も増えつつある中、一方で「仕事をしてほしいけど、家事は今まで通りキッチンとやってほしい」「家族に



塚田 美和 さん (スイミング指導スタッフ)

プロフィール スポーツクラブで、水泳コーチ、受付業務。結婚。出産→退職。育児をしながら「子どもネット」などで活躍。2000年11月から横須賀市健康増進センター「すこやかかん」スタッフ。水中ウォーキング教室などの指導にあたる。

「働きたい」と周囲に伝えたことで、いろいろな情報が得られ、再就職につながった。

横須賀市内在住で、現在再就職をして活躍している3人の女性にお聞きしました。

再就職へのプロセス

迷惑をかけないなら勤める事に反対しない」と、依然として家事や子育ては女性ががした上で再就職を考えなければならぬというのが現実のようです。



町田 せい子 さん (介護ヘルパー)

プロフィール 銀行勤務。結婚→退職。子どもが小4の時介護サービスのパートに就く。働きながらヘルパー2級の資格を取得。

両親の介護に役立てたいと始めたのがきっかけ。資格も取って、やりがいを感じているこのころ……。



富樫 尚江 さん (大型小売店勤務)

プロフィール 会社員。結婚。出産→退職。末っ子が小学生になったのを機にパートに応募。現在エイヴィでレジ係チーフとして業務管理、勤務管理にあたる。

成功の秘訣は、無理のない時間から始めたこと、家族で少しずつ協力し合ったこと。それと時には割り切ることも必要ですね。



再就職の

壁を越えるには

再就職準備講座の講師をされたお二人にうかがってみました。

見直したい家族の関係

池谷まゆみ先生
(ジャーナリスト)

子どもとの関係、パートナーとの関係、パートナーと自分と子どもとの関係を築く努力をしてほしいと思う。

例えば子どもには、独りで過ごす、何かあった時対応できる、簡単な食事を準備するなどの力をつけてもらう。同様にパートナーにも嫌悪感なく家事に参加できるように自立してもらう。

働き始めた時このような準備があれば、テイク・オフも抵抗が少なくて済みますよね。

仕事も子育てでも自分を育てる

遠藤礼子先生
(お母さん応援家)

少子化、情報の氾濫など子育ての環境は年々複雑化し、育児相談の内容も深刻なケースが増えている。

相談を通して、良い妻、良い母を目指すあまり、自分を見失い自信を喪失している母親たちの存在を強く感じる。

今、女性が妻でも母でもない自分を取り戻すため、家族から離れた場所を持つことはとても大切だと思う。趣味でもボランティアでも仕事でも。選択肢は多様だ。

仕事が子育ての足を引っ張るかの固定観念がまだ強いが、仕事を通



横浜在住。保育士歴18年。退職後は専業主婦2年を経て、聖ヶ丘教育福祉専門学校で講師を勤める。長年、母子サークル支援活動を続けている。

(育児支援サークルHOIKU123 E-mail hoiku123@yahoo.co.jp)



亜細亜大学非常勤講師。59年ラジオ日本入社。92年退職。この間国連女性会議など取材。現在「女性学」の講座を持つ。

して自分を育てることは母親としての生きる力にもつながるのではないだろうか。細々でもいいから、第三の自分を作ってほしいですね。

(談)

メッセージ

— 再就職を考えている人へ —

踏み出して何かを始める。そこから見えてくるものもあるでしょう。迷ってばかりいても何も始まりません。通信教育などを活用し、資格を取ったり、市や県の主催する就業支援講座を受けて力を蓄えるのも一つの方法です。

再就職を考えている方は家族と支え合いながら、まず第一歩を踏み出してみませんか？

デュオよこすかの本棚から

『女性の再就職』

再就職アドバイザー 原田 静枝 著 毎日新聞社



一度家庭に入った女性が再就職をしたいと思ったとき、働きたい症候群で終わらないために、いきなり遠距離の旅に出ず1区間の切符を買うつもりで始めてみることを著者は勧めている。履歴書の書き方、面接の受け方など。チャンスのつかみ方を具体的にアドバイスしてくれる。再就職を考えている女性にとって実用的に役立つ情報が満載の心強い1冊です。

デュオよこすか 市立総合福祉会館5階 本町2-1 TEL: 22-0804

図書の貸し出し、ミーティングスペース、女性の相談室などがあります。

仕事と子育て

両・立・支・援

右上のアンケート結果でも見られるように、保育をどうするかは、再就職を考える際に解決しなくてはならない問題の一つです。

一般に子どもを預けるための施設として先ず考え付くのは保育所ですが、多様な時間帯保育、長時間保育、交通機関との利便性など、多くの保護者からの要望に対応するために、本市でも多くの保育所で早朝、延長保育が行われるようになり、駅前保育所も開所し始めています。

保育ママさんという制度もあります。

〇二歳までの乳幼児を自宅でお世話していただけますから、乳児にとつてはありがたいですね。

母親の勤務時間と保育所に預ける時間にギャップがあるときなど、協力して下さる方がいると助かります。

子育てに関して援助を受けた人と協力可能な人が会員となって運営されるファミリー・サポート・センターが、準備中です。

留守家庭児童のためには、青少年会館、青少年の家、学童クラブなどがあります。内閣府の男女共同参画会議の子育て支援の中間報告には、必要とする地域での学童保育の推進も盛り込まれています。早い実現が望まれます。

一問い合わせ先

●子育て支援課(保育園、保育ママに関して) 電話(22) 9728

●青少年課(学童保育に関して) 電話(22) 8223

●愛らんとよすか(子育ての相談や情報提供) 電話(20) 1362

関東学院大学助教授 浅野俊哉さん

フリーライターの妻と、二人のお子さんの4人家族。



女性が働くためには、家庭の環境づくりが非常に重要です。現在の社会状況ではなかなか困難なことです。今回夫婦間の平等を実現しようと努力されている浅野さんの考えを紹介します。

先生が積極的に家事に取り組む動機は何ですか。

長男が産まれた時、僕は大学院生で家庭教師のアルバイトで生活費を稼いでいました。妻のほうに金銭的な余裕があったので多くの男性と逆の立場を経験しました。経済的に独立していないことの苦しさを学びました。

経済的に独立という具体的な目標はありますか。

まずお互いに自分の生活費は自分で稼ぐという自立した姿勢を持つことが大事だと思います。その上で家では、共有部分（光熱費や食費など）を半額ずつ出し合います。

経済面以外で夫婦が平等であることはありますか。

まず男は外で働き、家事育児は女の仕事と考える方達には、女性を家事育児から解放することは、男性自身が解放されることだということを知ってもらいたいですね。

すでに男女は平等であると考えている方達には、夫婦間の負担感の不一致をなくすように綿密なコミュニケーションをとることをおすすめします。

例えばキレイ好きのほうがそうじをする頻度が増え、フェアでなくなります。

男性が家事育児を女性におしつける反面、経済的に男性に依存する考えを持った女性もいると思います。

たしかにそういった甘えのある男性、女性が大勢いるのは事実だと思います。男女共生の社会とは働きづめとなっていて多くの男性を救う意味もあると思います。女性の積極的な社会進出、男性の積極的な家事育児への参加が求められていると思います。

僕自身も育児を通して子どもから学んだことはたくさんあります。女性だけに任せておくのはもったいないですよ。

お知らせ

条例づくりにみんなの意見を！

現在、横須賀市では、男女共同参画を推進するための条例づくりを進めています。9月12日～28日の間、市ホームページ及び男女共同参画課で素案と考え方を公表します。多くの意見をお寄せください。（詳しくは男女共同参画課まで）

編集後記

ニューウェーブがみなさんの身の周りの問題の手助けになればと思います。たくさんのご協力感謝しています。



久保隆明

性別、世代を越えた個性派4人と多くの協力で出来たニューウェーブです。大勢の方に読んで頂きたいです。

沼野美保

大手の電器メーカーの労働組合が加盟する電機連合は、賃上げ要求の根拠となる標準生計費（家計費）を夫婦共働きを前提とする算出法に改めました。女性の就労を巡る社会環境も変化しています。広い視点で関心を持つことが大切ですね。

佐伯淑身

取材したお宅で。多少の不便はガマンと母親を支える子どもたち。何かにつけ仕事を辞めたら……という夫。やっぱり男の自立はムスカシイ！

Y・Y

©ニューウェーブは公募による市民の方によって、企画編集を行っています。

皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

横須賀市市民部男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 ☎22-8228
e-mail we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp
ホームページ http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/